

パネルディスカッション 2

「出血性大腸憩室症の治療方針、内科と外科の立場から」

Recent advancements in medical and surgical treatments for colonic diverticular hemorrhage

司会 堀木 紀行（三重大学医学部光学医療診療部）

鶴岡ななえ（佐賀大学医学部消化器内科）

近年本邦では大腸憩室の保有率が上昇し、大腸憩室出血の患者も増加していることから、2017年12月に大腸憩室症（憩室出血・憩室炎）ガイドラインが消化管学会から発表された。急性疾患であるが、再発しやすく大腸切除が必要となる重症例もあり、内科的治療をどのように選択するのか、また内科的治療の限界をどのように見極め、手術に移行するか、長期再発予防効果のある治療法があるのか等は重要な課題である。内科および外科的立場からの活発な討議を期待したい。